

佳作 母の言葉



エンダー ヌハミダー
ENDAH NURHAMIDAH
国 籍 インドネシア
職 種 介護
実習実施者 社会福祉法人神通福祉会
監 理 団 体 サイハン富山協同組合

二年前に、インドネシアから介護士の仕事をするために日本に来ました。日本での生活や全く経験のない介護現場でのコミュニケーションはとても不安でした。友達からは「介護の仕事は大変だよ。」「海外だし、夜勤もあり厳しいよ。」と言われ悩みました。でも、母からは「介護の仕事は大変だけど、いつも心を込めて皆を介護し、思いやりと愛情を持って接すれば、相手も喜んで答えてくれる。」と言われました。母はいつも私を理解し支えてくれる存在です。母の言葉が私に勇気を与えてくれて日本へ行く決心することができました。

私の母は80歳で元気です。インドネシアでは80代で元気な人は多くいません。でも、私のいる施設では90歳以上の元気な人が多くて驚いています。時々、母に電話をします。いつも「元気、ご飯を食べたの。」と聞かれます。私は「はい」と答えるだけの会話ですが、少し元気になって、もっと頑張ろうと言う気持ちになります。母も安心していると思います。

施設で、利用者様への私の挨拶は「お元気ですか、ご飯をいっぱい食べましたか。」です。「はい、元気だよ。ご飯は美味しかったよ。」と言われると嬉しくなります。

また、食事で嫌いな物を残していたら、「これ、美味しいよ。食べましょうか。」と声をかけます。そして、食べてくれるととても嬉しいです。子供ころ、野菜が嫌いだった私に母がよく言ってくれた言葉です。母の気持ちがよく分かります。

夜勤の時に、利用者様に「それじゃ、おやすみなさい。」と言うと、「ありがとう。おやすみなさい。明日もまた頼むね。」と私の手を握りながら利用者様が答えてくれました。短い会話でしたが、とても感動しました。子供のころ、寝る時に母が私の手を握りながらいつも「今日、いい子になってありがとう。今から寝て、明日元気に起きなさい。じゃ、おやすみなさい。」と言った時の母の手の温もりを思い出しました。

母の言った通り、心を込めて介護し思いやりと愛情を持って接すれば相手も返してくれると実感しています。母の言う事を信じて、日本に来てよかったと思っています。母の言葉や励ましがなかったら、今のようにはなれなかったかもしれません。母の言葉は私の心の支えであり、今も心の中で生きています。

遠く離れた母を思いながら利用者様に心を込めて接しています。私は母に感じている温かさ利用様が私に感じてもらったら良いなと思っています。私が、少しでも利用者様に楽しんでもらえるよう、これからも頑張っと思っています。

日本での生活、介護の仕事は不安でしたが、今では利用者様との関係が生活の中心になっています。皆様との出会いは、私にとって大切なものです。これからも大切にしていきたいと思っています。